

第5回 蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議 概要

- 1 日 時 平成27年9月9日（水）午後1時開会・午後4時閉会
- 2 場 所 市役所303会議室
- 3 会議参加者 ファシリテーター 恒川和久
委員
天野忠則 早川康子 高柳幸枝 高田 稔
加藤晃祥 本多英夫 遠藤朋志 星野有美
尾崎佳奈

4 次 第

① 本日の会議内容説明

今日の会議では今までの議論の中で出てきた意見を取りまとめて提言書にまとめて来ましたのでその内容について皆さんの意見を頂きながら進めていきます。

② 公共施設のあり方の提言書について

<p>・全体の構成について (ファシリテーター)</p>	<p>まず、提言書の構成について説明をしたいと思います。提言書は初めの「提言にあたり」というところで市民会議がどのような思いで開催されたか等の説明がされています。続きまして第1章で公共施設のマネジメントの必要性を説明しています。これはこの会議においても第1回、第2回あたりで蒲郡市の状況を理解して頂いたと思いますがその状況を説明しています。第2章では公共施設の役割とあり方を説明しています。これは皆さんにワークショップを通じて考えていただいた過程を説明し、そこから出てきた意見をまとめたものです。第3章は公共施設のあり方に関する提言ということで、ここでは皆さんが会議のなかで意見として出されたものを3つのテーマでまとめて市へ提言する形式でまとめてあります。最後に資料編として第1章で触れられた蒲郡市の状況を説明する資料と、会議の中で出された個別の施設に対する意見をまとめた資料などを添付しています。この提言書を本日ご確認いただき不足している部分、あるいは表現が違う部分などを意見していただければと思います。</p>
<p>・「提言にあたり」について (ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p>	<p>まずは本文を読んで頂きその後でご意見を頂きたいと思います。 (以下、同様に提言書案を委員が読んでから意見の聞き取りを行うという構成で進行)</p> <p>最近子供に対する性犯罪が増えている。そのため安全な街という表現を入れられないか。</p> <p>「提言にあたり」の中に入れたほうが良いということですか。</p> <p>みなさんの意見もありますがどこかに入れられたらと思います。</p> <p>どこかに安全という事を入れたいと思います。</p>

<p>・第1章「公共施設のマネジメント」について</p> <p>(ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p>	<p>この章は、何が問題になっているかをまとめたところです。事務局や私の方から説明したこともあります、みなさんの意見も反映されております。</p> <p>近隣の市町村（幸田、豊川など）との関わりについて触れておくの良いのではないかと。</p> <p>結局、どの自治体も周りを見ることなく、自分のところだけを見てやってきたのです。もう少し広い目を見て、公共施設をお隣と共有するという視点もあった方が良かったかもしれませんので、問題点の一つとしてあげておいても良いと思います。</p> <p>お金のことも重要だが、核家族化や地域での子育て・高齢者の見守りのことを考えると、今まで別々だった施設を統廃合という点もあるのではないかと。</p> <p>「地域を豊かにする」という表現に含まれるかもしれないので、もう少し役割を付け加えて書いても良いかもしれません。</p> <p>話したことはよくまとまっていると思うが、行政文書のように見える。提言書というと、こういう形になるのかもしれないが、もっと大きな字で表現するなど、読む人に訴えるようなものにならないのか。</p> <p>提言書というと多くの場合、こういう形式になるのではないかと思います。市民の方に見ていただくという視点からいうと、例えばキャッチフレーズのようなものがあって大きな文字で目立つようにするとか、これとこれが大事なことだと伝わるような図をつくるだとか、少し項目を整理して箇条書きで書くとかの工夫が必要だということですね。ダイジェスト版で言いたいことを1ページにまとめたものを別に作成するという事務局案もありますので、市民のみなさまにお伝えする方法についてはもう少し考えてみたいと思います。</p>
<p>・第2章「公共施設の役割とあり方」について</p> <p>(ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p>	<p>この章は、ワークショップで委員のみなさんに2グループに分かれて考えていただいたことについて触れています。</p> <p>提言書案の7ページだが、地域に配置されるべき施設について「学校再編の際には、学校と公民館、・保育園などの施設の連携・複合化を図ることが必要であると考えます」とあり、「これによって同水準のサービス提供を維持しつつ」と続くが唐突で分かりにくいのではないかと。例えば、「図書館と小学校が複合化されることで、子どもに大人が教える機会、子どもと大人が交流する機会が増える」といった具体例があった方がわかりやすいのではないかと。</p>

<p>(ファシリテーター)</p>	<p>元々、学区は地域やコミュニティの大事な単位となっていて、再編を考えるとときにはそれが非常に重要になってくる場所です。学校は施設の量が多く、子どもの数が減ってきている、であれば学校を中心に地域の施設を考えたほうが良いのではないかとということになります。そうすると、例えば学校と公民館や保育園とかとの連携や、学校が地域のコミュニティの中心拠点となっていくはずだ、といったことを少し加えるように考えてみましょうか。</p>
<p>(委員)</p>	<p>6ページの真ん中あたり、「我慢」も必要ですとあるが、どうしても納得できない。公共施設を無くして、我慢しろ、になってしまうのではないかと。良いように使われるような気がする。ここは「理解」だとか、「承知」などの文言でも良いのではないかと。または「ある程度の」や「必要最低限の」などの表現を加えた方が良いのではないかと。</p>
<p>(ファシリテーター)</p>	<p>「我慢」という言葉に対しては、委員のみなさまそれぞれで受け取り方が違って、良いと思われる方もおられれば、都合よく使われるのではないかとといった懸念をお持ちの方もおられます。正直、施設を減らすという話はある意味「我慢」という言い方もあるのかもしれませんが、実際にはそんなに「我慢」という程のことは起こらないのではないかと考えています。公共施設は一部の人がずっと使っているものも結構多く、そういう人たちにとっては「我慢」になってしまうかもしれませんが、一般の人、特にあまり施設を利用していないような若い人たちにとっては何が「我慢」なのかよくわからない、という感じもあるでしょうね。全体としては、そんなに我慢にならないのでは、と思います。</p> <p>地域の施設、例えば公民館などの場合、よその地域に公民館があるならばうちの地域にもといった具合に公共施設が増えてきた側面もあるので、そういう意味ではパブリックな意識を市民が持つということも大事なのですよということが言いたいことなのですね。</p> <p>ただし、委員さんの中で「我慢」という言葉が気になるということが話題になりまして、確かに「 」書きは強調にも見えるので、表現についてはちょっと考えてみようかと思っています。</p>
<p>(委員)</p>	<p>5ページの図と、6ページ以降の各象限の説明が離れているので、構成としてももう少し見やすいようにできないか。</p>
<p>(ファシリテーター)</p>	<p>先ほどご指摘のありましたように、提言書全体の見やすさと合わせて考えてみたいですね。この図をもっと強調して、図の中にポイントが書き込まれているとか、その後に説明があるとか、何か書き方を考えます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>■、①、②など、章の中の小見出しに規則性がなく、わかりにくいところがある。パッと見たときに繋がらない感じがする。</p>
<p>(ファシリテーター)</p>	<p>これも大事なことです。検討します。</p> <p>最初の会議だったと思いますが、ゼロベースから本当に行政がやら</p>

	<p>がありました。レジリエンスというのは、日本語では「強靱化」と訳されています。東日本大震災のあとくらいから内閣が「列島強靱化」だとか「国土強靱化」だとかといった言葉の使い方をしていました。これを聞いて「レジリエンス＝強靱化」という訳語が少しまずいのではないかと思いました。「強靱化」というと例えば堤防をガチガチに固めて津波対策しましょうというふうに聞こえますけれども、本来は強いという意味だけではなく「しなやか」という意味を合わせて持っているのですね。「しなやか」というのは人がいろいろ関与したりすることによって、フレキシブルに対応していくということです。例えば津波対策の話で言えば、堤防を高くするだけではなく、人と人との助け合いの中で対策するということです。</p> <p>ドレスデンは人口減少していったまちでして、これから人口が減少していく中で、まちや施設のあり方はどうあるべきかをいろいろ議論しました。自治体がガチガチに計画を定めるのではなくて、地域の人たちが良いところを見つけて、地域のことを考えていくということが、全体を強くすることにつながるという議論をしたのですが、地域の資源をうまく使えるような策で公共施設のことを考えていくことができれば良いのではないかと思いました。</p> <p>(委員) 8ページに「特に重要と考えられる取組みは、次のとおりです」、9ページに「次のような取組みも必要と考えられます」という表現があり、8ページの取組みは四角の囲みで強調されている。取組みの序列があるように読めるが、これで良いのか。全て重要な取組みではないのか。後から出された取組みの方がなんとなく付け足しのように見えてしまう。</p> <p>(ファシリテーター) みなさんのご意見で特に序列が重要ではないということであれば、四角の囲みは取ってしまっても良いですし、序列をなくしても良いです。</p> <p>(委員) 10ページにも「我慢」という表現が出ている。統廃合で我慢しろ、という結論に行ってしまうような感じがする。</p> <p>(ファシリテーター) 「我慢」という表現は先程と同様に見直したいと思います。私も少し訂正したいと思いますが、8ページの「施設の運営を効率化しつつ、市民サービスを維持するための取組方針について提言します」という表現ですが、「効率化しつつ、市民サービスを維持する」というよりは、もうちょっと前向きに「よりよい市民サービスを実現するために」やっているという表現にしたほうが良いのかなと思いましたので、そこも直していきたいと思います。</p> <p>(委員) 公共施設が何に使われているか分からない、だから必要性があるのかどうか分からないという意見があって驚いたが、そのあたりのことにも少し触れてもらえれば、良いと思う。</p> <p>(ファシリテーター) 施設のことを知らないと使えないので、市民に周知することが必要</p>
--	--

	<p>だということですね。逆に施設に魅力があれば市民に知れわたるのかもしれませんが。良いサービスがあることに加えて、市民に知れ渡ることは重要です。そのあたりのことを付け加えます。</p>
<p>(委員)</p>	<p>10ページの近隣の自治体との連携の部分だが、この書き方であると蒲郡市は小規模な施設を持つけれども、大規模の施設が必要なときには近隣自治体の施設を使えばよいという感じに、蒲郡の都合を近隣自治体へ押し付けているように読めてしまうのではないか。</p>
<p>(ファシリテーター)</p>	<p>自治体との連携は重要ですね。蒲郡を訪れたたちが、また蒲郡に来てみたくなるような施設をつくるのが、他の自治体の人たちや観光に来られる人たちへのメリットになるという視点が入ってきて、近隣との連携の視点などを付け加えるなど、前向きな表現に少し補足します。</p>
<p>(委員)</p>	<p>市民会館のホール収容人数は大ホール1500人、中ホール500人だが、規模縮小ということで500人のホールのみにしたとすると、催し物によっては利用できない場合も出てくるのではないか。800人から1000人くらいが良いかもしれない。</p> <p>蒲郡はすぐ近くに海が見える場所に蒲郡駅があり、花火の会場からすぐ電車に乗ることができる。こんなところは滅多にないと思うが、駅から降りても1日遊ぶことができる場所が近くにない。1日遊ぼうと思うと、ラグーナになってしまう。であれば水族館から竹島へかけてもう少し商業施設ができると良いと思う。</p> <p>また、蒲郡駅からラグーナまでバスが走っているが、自転車での移動も可能な距離なので、例えばレンタサイクルなどをうまく活用できれば、途中で三谷を通っていくので、まちの活性化につながるのではないか。</p> <p>提言書には「住んでいる人が輝く」という表現を入れると良いと思う。</p>
<p>(ファシリテーター)</p>	<p>実際に蒲郡に住んでいる人たちがどういう活動をしていて、どういうニーズが高いのかを考え、市としてそれを実現するために公共施設があるという視点から、住んでいる人が輝くために公共施設があるということに結びつくわけです。ホールの話が出ましたので、また名古屋大学の例で恐縮ですが、豊田講堂は60年前建てられたときには1600席のホールでした。それを5年ちょっと前に大規模な改修をして1200席に縮小しました。今の人は建設当時と比べても体格が大きし、もう少し席をゆったりと大きくし、いろいろな活動に使えるようにステージの横幅や奥行きを広くしたものです。構造体としてはまだまだ十分に使えるものですが、それを大規模にリニューアルすることによって、施設が生き返ることがあるのですね。ですから、市民会館にしても今のニーズに合った施設に、例えば1500席を1200席なり1000席なりに少し縮めてステージを広くしたり、あるいは音</p>

<p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p>	<p>楽にもう少し特化した施設にしたりといったふうに、施設をハコとして持っていることをもっと有効に利用できるような方策はいろいろあると思うわけです。</p> <p>ずっと考えていたことだが、市役所と市民の垣根が有るようには感じている。市役所と市民が交流する場が少ない、それから市民が無関心になっていることが問題。今回の公共施設のあり方に関する問題についても同様で、どうやって無関心な層を話し合いの場へ上げていくかということが最優先されるべきだと思う。今回のように若い人たちが市役所と一緒に話すディスカッションなどがもっと増えれば、もっと違った意見も出てくるのではないかと。無関心をいかに無くすかということが公共施設のあり方を問う際には重要になってくると思う。</p> <p>わくわく感、輝ける街、というのは大事。市役所の側でもわくわくしているのか。仕事だからやっているのではないかと。どこかにわくわくしている人が居て、そうした人たちが集まれば、もっとより良い市になるのでは。</p> <p>市民の無関心、行政と市民との間に壁があるという話は、確かにおっしゃるとおりだと思います。解決の方法としては、議論する場や市民の知る機会をつくって、市民が無関心ではいられない、あるいは自分の問題として捉えるようなきっかけをなるべく仕掛けていくことが大事なことです。そんなことを少し加えていきます。</p> <p>行政側がわくわくするかという話がありましたが、これは先ほどの市民との交流とも関係する話です。たまたま本日午前中に西尾市に行ってきました、資産経営課の人たちと話をしてきました。</p> <p>西尾市は今大変なことになっていまして、PFIという大きな事業を手がけています。民間がまちづくり会社みたいなものをつくって、西尾市の公共施設をその会社がつくるというやり方をしているんですね。30年間で300億円という、この規模の自治体ではありえないくらい大きなことをやっているわけです。議会の反対もあつたりするのですけれども、行政職員はものすごくわくわくしながらやっているのです。一年間くらい時間をかけて市民といっぱいワークショップをやったり、いろいろな全国の自治体へ視察に行ったり、いろいろな研究者たちと交流をしながら進めています。市長や他のセクションの人たちの協力があつてこそだと思つたのですけれども、行政職員の思いがなければこうした大きな事業はできないわけで、まだ西尾市の結果は出ていないけれども、それなりに西尾市がうまくいっているという評価があるのは、提言書の12ページからの「(3)公共施設マネジメントの推進方策」でいうところの、進め方の問題が大きいのではないかと。思います。</p> <p>わくわくするかどうかということが行政のやる気につながるわけなのです。事業がうまくいったからといって、民間とは違って自分の</p>
-------------------------------	---

	<p>給料が上がるわけでもないわけで、このまちがより良くなるようにとか、市民の方々がこのまちでより豊かに暮らせるようにとかがモチベーションになり、それがわくわく感につながるわけです。</p> <p>ご指摘のありました市民の無関心の問題、市と市民の交流の問題、わくわく感の問題はすべてつながっていると思うので、そのあたりは「(3)公共施設マネジメントの推進方策」に書いておきます。</p> <p>(委員) 市役所のやり方にも問題はあるのかもしれないが、蒲郡市には住民パワーが無さすぎると思う。市からああしろ、こうしろと言われて住民がやっているうちはうまくいくはずがないと思う。住民の側からどんどん提案することで、市の職員たちもやる気が起きるのだと思う。蒲郡市の場合は提案される側がついてこないで、例えば道路がスムーズにできない。岡崎の例をあげると、産業廃棄物処理場の問題で、地区が承諾する代わりにいろいろと条件をつけていった結果、山間部に道ができ、道ができたおかげで雇用が生まれていったということがある。道ができたので桜を植えようということで、桜を植えてみたら、ちょっとした地元の観光地となったという例がある。これは住民の意気込みが導き出したことだと思う。住民から「やりましょうよ」という意見を出す必要があると思う。</p>
(ファシリテーター)	<p>確かに住民側からの働きかけは重要で大きな原動力となりますが、この提言書で住民側から何か提案すべきと書いているだけでは、なかなか住民側から提案が出てこないで、そこについては行政がきっかけづくりをすることが必要になります。やはり、市と市民、両方が手を取り合うことが重要です。既に行政と市民のそれぞれの役割について多少は書いてありますが、さっき話題になった「我慢」ではないですが、もう少し感覚的に響くような「生っぽい」言葉で書く方法もあるかもしれませんね。</p>
(委員)	<p>地域の体育祭で地域がひとつにまとまる。一時は体育祭の廃止の話もあったが、存続している。ふだん会わない人たち同士の情報交換する機会ともなり、災害時にも役に立つのではないかと。絆も大事にしていかなければならないと思う。</p>
(ファシリテーター)	<p>11ページの「地域による主体的な運営」のあたりに、地域の絆やコミュニティ、発信といったことを書いてもいいのではないかと思います。公共施設がそうした場をつくり、その役割を担っているのですね。市民の無関心の解決にもなるかもしれません。また、災害の対策としても、避難所など公共施設は重要な役割を果たすので、その点も加えると良いのではないかと思います。</p> <p>9ページに「新たな建設投資の抑制」ですが、今、蒲郡市では体育館の建設をやろうとしていますね。みなさんといっしょに見学しましたとおり体育館自体は老朽化しており、それは何とかしなければいけないという話なのですが、公共施設の全体像やまちづくりの全体像を</p>

踏まえて考えなければいけないと思います。

もしかしたら、今のスケジュールでは体育館の話までは載せられないことなのかもしれませんが、せっかくこの会議で公共施設の議論をしている一方で、大きな経費のかかる施設をつくってしまったとなると住民から反発を招くことがあるかもしれません。実を言うと私が関わっている他の自治体でも同じようなことが起きています。新城市が新庁舎を建設するといったことへ反対運動が起こって住民投票までになりましたけれども、一方で公共施設マネジメントをやっているのですね。国立競技場の問題でも根っこのところは同じ問題で、全体のプログラムの中でどう位置づけられていて、どうしなければいけないのかがキチンと詰められないまま話がどんどん進んでいって、誰も責任が取れないような状況になってしまうのですね。この会議でせっかく議論しているのに、一つ一つの施設をつくる上での市長・行政の責任、それを考えられる組織にしてほしいという市民のメッセージは入れておかないといけないと思います。

行政の縦割りの話もあるかもしれませんが、全体像を踏まえて考えるような体制に早く整えてほしいということ、是非加えたいと思います。

(委員)

縦割りの弊害の話だが、これによってすごく無駄な投資をしているように思われる。これが続く限り同じような施設が残っていくことになるのではないか。

資源回収を毎日校内に受け入れるように行っている学校があって先生に事情を聞いてみたら、学校で1年間に使える予算の枠がだんだん狭くなってきており、学校の机を揃えるのに予算が足りないのに、資源回収で得た収入を不足分に充てたいということだった。また同じ学校の話だが、3階の窓が壊れていて窓を開けると落ちてしまう、また台風のとき風向きによっては校長先生が雑巾を窓に当てないと雨水が中に入ってきてしまうという状況が2年たっても3年たっても続いているという。そういう話を聞くと、市役所は何をやっているのかという話になり、募金でもしなければならぬのかという気持ちにもなってしまう。

学校にお金がなくて樹木伐採などがおろそかになるという話もあるが、これに対しては小中学校のPTAの人たちが「おやじの会」というものをつくっていて、ボランティアで学校の樹を切ったり通学路の掃除をしたりしている。たくさん的人数ではないが自営業でダンプを持っている人もおり、また職人的な人もいる。行政だけではできないことを住民が行い、われわれもやるので行政の方もやってくださいよというふうにするのがベストだと思っている。

(ファシリテーター)

サービスを「与える」-「受ける」という関係であるすると、「我慢」だ「我慢」じゃないという先ほどからの話が出てきてしまうので

	<p>すが、そうじゃなくて住民側からやるのだと発信することが問題解決につながってくるということですよ。非常に貴重なご意見だと思います。</p> <p>先ほどのパブリックマインドの話になるのですが、昔は地域のことは地域で、自分たちでやっていたのが、何でも行政がやってくれるということで、だんだん切り離していった結果が今の姿です。公共施設がどんどん肥大していくことだとか、公共が何でもやらなければいけないのでお金がなくなって学校の塗装もできないという話につながっているのです。日本だけではなく多くの昔ながらのまちは、行政だけが公共のサービスをやるのではないということやってきているわけです。行政対住民という話になってしまっていることが、問題の根っこにあります。すべて公共施設の話で発信して解決することではないですけども、例えば公共施設のプロジェクトを立ち上げていく中でそういう話し合いをしていくことはありうると思うのです。是非、これについても意見として入れておきたいと思います。</p>
<p>• 資料編について (ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p> <p>(ファシリテーター)</p> <p>(委員)</p>	<p>資料1については、白書等に書かれておりますが、蒲郡市を取り巻く社会情勢・現状を説明しているところで、16ページから20ページまでは市民アンケートの結果を載せておりますが、もうちょっとまとめて、それぞれの項目ごとに比較して市民がどれを重視しているのかをわかるような書き方にします。21ページから23ページまでの資料2のところは、それぞれの建物ごとに委員のみなさんが出していたご意見を載せていますが、これについても加筆や訂正があればお願いします。</p> <p>22ページの勤労福祉会館について、福祉施設だが会議室の貸出が多い施設であり、ここを拠点にしているボランティア団体が施設を使えないというときがある。駐車場が狭いが、駅から近いので6か月前から予約できるし、会議室利用が無料なので予約がたくさん入ってしまうが、福祉活動の拠点でもあるので、本来使っていた利用者が使えないことがある。提言書の文章はこのままで良いと思うが、実情を伝えたいと思って発言した。</p> <p>他の自治体でも同じなのですが、会議室や集会室は全体としてはとても余っています。ここは誰でも使えるとか、ここは地域の人だけが使えるとか、部屋によっていろいろな縛りがあって、本当に使いたい人が使えないということはどのまちにあってもし起りうることです。実際はある程度の大きさの部屋があればどこでも活動できることはいっぱいあるので、活動に応じた使い方なり貸し方なりをするということも実は大事なことなので、そういうマネジメントをすべきだと思います。</p> <p>21ページの資料2の市民会館についての記述だが、規模縮小はか</p>

